

平塚市で記録されているカマキリは5種類探してみよう! 見分けてみよう!

ひらつかの カマキリ 見分け方 ずかん

WEB版

HIRAOKA Kindergarten

オオカマキリ

Tenodera sinensis

日本最大級のカマキリ。外見は右種(カマキリ)と似るので、しっかり見分けよう。体の色はバリエーションがあり、緑～褐色。



③ 卵しよう
スポンジ状で独特の形状をしているので判別は容易。草や枝に付いていることが多い。

カマキリ (チョウセンカマキリ)

Tenodera angustipennis

オオカマキリに次ぐ大型種。外見はオオカマキリと似るので、よく確認しよう。体の色はバリエーションがあり、緑～褐色。市内での分布は局所的。



③ 卵しよう
細長く、中央の縦筋の盛り上がりがある(断面は凸状)。草や枝に付いていることが多い。

コカマキリ

Statilia maculata

名前の通り小型のカマキリ。前あしの先の方に黒白の模様があるのが特徴。体色は褐色型が多いが、緑色型も出現する。



③ 卵しよう
倒木、石などの物陰になるような場所に付くことが多い。

ハラビロ カマキリ

Hierodula patellifera

樹上性のカマキリ。やや小ぶり、ずんぐりとした体形。緑色型が多いが、褐色型もいる。右種と似るので見分けには注意が必要。

① 突起は大きく3個程度



② 横縞の模様

③ 卵しよう
樹木の枝・幹、家屋の外壁など様々な場所で見られる。

ムネアカ ハラビロカマキリ

Hierodula sp.

中国原産の外来種。2020年に市内への侵入が確認された。外見は左種に似るがやや大きい。褐色型は出現しないようである。

① 突起は小さく8個程度



② 赤っぽい

③ 卵しよう
細い枝に付くことがほとんど。接地面は上部のみで、下部は浮き上がる。白い粉で覆われるのも特徴。

神奈川県その他のカマキリ

※写真は平塚市博物館所蔵標本

ヒナカマキリ

Amantis nawai

沿岸の照葉樹林に生息する。体はとっても小さく、1円玉と同じくらいのサイズ。翅(はね)が短いので幼虫のように見える。



ヒメカマキリ

Acromantis japonica

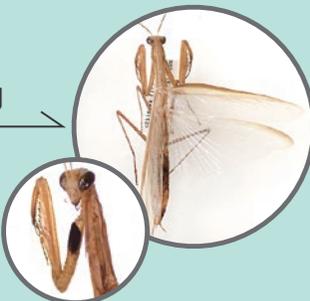
沿岸の広葉樹林に生息する。体は小さく、500円玉と同じくらいのサイズ。ハナカマキリの仲間。



ウスバカマキリ

Mantis religiosa

県内での確かな記録はなく、疑問種として扱われている。前あしの付根にのみ、黒色(or黒白)の模様があるのが特徴。



「みんなで調べよう平塚のカマキリ」に参加される方へ



① 写真を撮影される際は、見分けポイントがしっかり写るように、複数アングルから撮影してください。左写真のように胸を持って、前あしを開かせた写真がベストです。

※左の写真は、前あしの付根が黄色く、腹部先端に産卵管が見えるのでオオカマキリのメスだとわかります。



オス

産卵管

メス

オスはお腹が細い。メスはお腹が太く、先端に産卵管がある。

オス・メスの見分け方

② このWEB版図鑑は、折り込みでの使用は想定していませんが、紙面版は下写真のように折り込んで『ポケット図鑑』として使用することができます。紙面版は、希望者には平岡幼稚園、平塚市博物館で無償頒布しています。



ひらつかのカマキリ見分け方ずかん

発行日 2023年8月25日 (WEB版)
文・写真 堀田佳之介
デザイン 富岡誠一
発行元 平岡幼稚園(神奈川県平塚市岡崎3024)
撮影協力 平塚市博物館